



## 背景・目的

## 事業目的・概要等

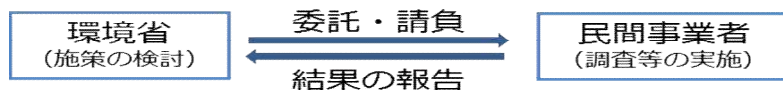
自動車排出ガス・騒音規制の導入及びその強化により環境は改善傾向にあるものの、大気汚染や騒音に係る環境基準が依然として達成されていない状況

H27年度環境基準達成率 自排局 NO<sub>2</sub> : 99.8%、PM<sub>2.5</sub> : 58.4%  
騒音（幹線道路） : 89.3%

## 事業概要

- ①交換用マフラー対策を含む実環境における騒音対策強化等調査  
交換用マフラーの騒音実態把握とともに、実環境における騒音低減に向けた効果的な対策検討のための車両騒音シミュレーション手法を開発
- ②自動車次期排出ガス規制策定
  - ・路上走行検査に係る調査・検討
  - ・温度補正を含む排出原単位及び総量算定方法の見直し
  - ・駐車時の燃料蒸発ガス規制の見直し及びパフロス規制に係る調査・検討
- ③NO<sub>x</sub>後処理装置の使用過程での性能確保対策策定  
最新規制適合車における性能低下メカニズム解明のための調査・検討
- ④自動車からの微小粒子状物質等実態分析及び対策策定
  - ・PM粒子数規制の国内導入に向けた検討
  - ・ブレーキ粉塵及びタイヤ粉塵に係る試験法等の策定

## 事業スキーム



## 期待される効果

- ・実走行における排出ガス量低減による大気環境の保全
- ・排出原単位及び総量見直し等による効果的・効率的な対策の導入
- ・自動車排出VOCの更なる低減によるNO<sub>x</sub>/PM<sub>2.5</sub>濃度の改善
- ・排気以外のPMを含む自動車排出PMの更なる低減によるPM<sub>2.5</sub>濃度の改善
- ・実環境における騒音低減に資する効果的な対策の導入

## ○自動車排出ガス規制強化等推進事業の例

## イメージ

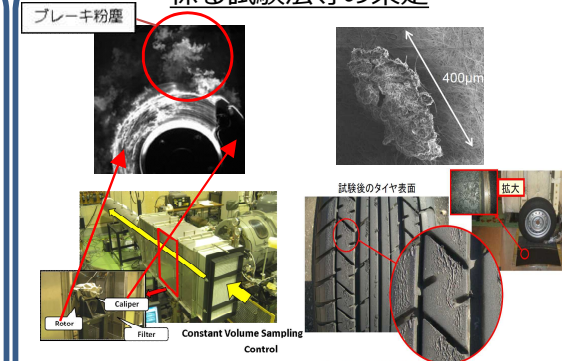
### 車載式排出ガス測定システムによる路上走行検査の導入

**NO<sub>x</sub>規制値2倍超で「違法」**  
路上走行試験 排ガス不正受け  
国交・環境省

H29.4.21 日刊自動車新聞 2面

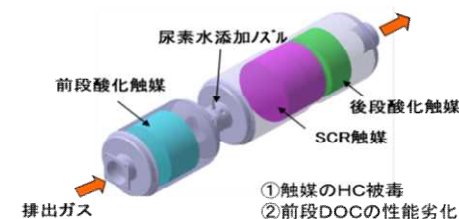
- 温度補正を含む排出原単位及び総量の策定方法の見直し

### ブレーキ粉塵・タイヤ粉塵に係る試験法等の策定



- ブレーキ粉塵・タイヤ粉塵の排出特性の把握及び測定法の検討

### NO<sub>x</sub>後処理装置の使用過程における性能低下対策

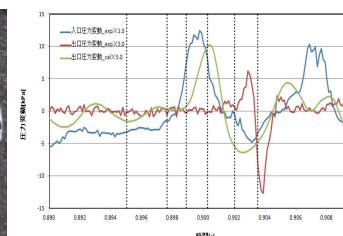


### NO<sub>x</sub>後処理装置の劣化メカニズムの解明

## ○自動車単体騒音規制強化等推進事業の例



騒音低減技術、騒音実態の把握



シミュレーション手法を開発し、実環境における音源の寄与度を解明



シミュレーション予測に基づく実環境改善に効果的な低騒音マフラーの提案